

会 議 要 録

会議の名称	令和3年度第2回酒田市文化芸術推進審議会
開催日時	令和3年9月30日(木)午後2時～ 午後3時30分
場 所	酒田市役所3階第1委員会室
出席者	<p>○出席委員</p> <p>中川幾郎委員、熊倉純子委員(リモート参加)、市原多朗委員、工藤幸治委員、向田宏利委員、田中章夫委員、阿部直善委員、加藤聡委員、加藤真知子委員、白旗定幸委員</p> <p>○事務局</p> <p>鈴木教育長、池田教育次長 (社会教育文化課)</p> <p>阿部課長、村井課長補佐、池田主査兼係長、佐々木主査、菊池主事</p>
<p>1. 開会(事務局)</p> <p>2. 会長あいさつ(中川会長)</p> <p>3. 協議</p> <p>(1)答申書(案)について</p> <p>事務局</p> <p>資料1についての説明</p> <p>意見交換</p> <p>委員</p> <p>答申案はこれまで話し合われてきた内容が示されており、文言については問題ないと思う。答申案とは違う話題だが山居倉庫について、国の史跡になることで今後どのように活用されていくのか、その存在・利用が文化芸術分野に近づいてくるのではという思いがある。</p> <p>委員</p> <p>課題が3つに整理されている点、良かった。連携強化・人材育成の部分は前回の答申と重なっている部分も多い。結果が出るまでは時間を要すると改めて実感している。さらにねばり強く、具現化していくことが必要。</p> <p>委員</p> <p>課題概要と答申案とのギャップが激しい。答申案が抽象的過ぎる文面になっており、自分では、審議会の各委員の発言議事録に記載されている具体的な内容、それをまとめた課題概要、そして答申案までの展開を上手く理解することが出来ない。</p> <p>委員</p> <p>学校の現場では、子どもたちにとって様々な文化芸術体験が心の育成となるため、様々な事業を提案してもらえることは大変ありがたい。いろいろな文化芸術に子供たちがふれることが大切。授業を通してそこから家庭・社会教育へ繋がって欲しい。限られた教育課程の中ではあるが、学校での体験が社会・家庭に繋がっていくよう、社会教育と連携しながら学校教育をすすめていきたい。限られた時間の中で行うため、実施が難しい事業については意見させてもらうこともあると思うが、今後も市と意見交換をしながら連携していきたい。また、自分もいろいろなアートを体験して子供たちに伝えたい。</p> <p>会長</p>	

社会教育から学校教育には普及しないが、その逆は大いに期待できる。

委員

答申案の体裁について、小見出しをつけたほうがよい。中身について、研修については市職員は人事異動でノウハウがなかなか蓄積されづらい。さかた文化財団と連携することで財団にノウハウの蓄積されていくのではと期待する。答申案の3「貧富」「個々人」はあえて必要はないと思う。最後に、コロナ禍における文化芸術事業の進め方を答申案のどこかに入れたほうがよいのではと思う。

委員

答申案については、全く問題無く読み進め納得している。事業についてアイデアがある。自分が若いころ住んでいたイタリアのミラノは美しく、眺めながら歩くのが楽しい街だった。愛でながら歩いて楽しいと思える街が文化芸術を醸成する。酒田を訪れるたびに、何かさみしい、何か欠けていると感じる。酒田の街は歩いても楽しくない。街を歩いても、メッセージ性・ポリシー・美しさが欠けている。プロフェッショナルな人から助言いただいても良いと思う。歩いて楽しい街にすることが、文化の発信につながる。酒田の街のチャームポイントを作るために、商店街が取り組む、または市役所が商店街に働きかける、それが郷土愛を育むことに繋がる。美しい街にするために酒田のあちこちに仕掛けが必要。少しずつでも始めていくことで、市全体の意識を変えていくことができれば。

委員

街のいろいろなところで仕掛けていくことが必要。それが文化的な環境の醸成に繋がる。

委員

少しずつ、市民の意識を変革していけるよう、酒田市役所でなにか取り組みができないか。

会長

施策の実行が可能か、検討が必要である。

委員

酒田・庄内全体について、将来を担う若者が定住できない現状があり、このことが人々に将来の展望を拓かせなくし、美しさに対する意識を薄くし、市民・街全体に文化芸術を行き渡らせないことになってはいないだろうか。市民が同じ気持ちをもって、次の世代に繋げていこうという自覚が必要である。文化芸術に興味や関心があるのは一部の人のみで、全体に浸透して行かず、もどかしい思いがある。

委員

人材育成のうち、市民の育成が大きな課題。事業は評価されているが人が集まらない。酒田市に対する愛情・愛着がない。

委員

これまでの議論がよく反映されている答申案で、文言については問題無い。次の事業にどう繋がっていくのか、興味がある。

会長

答申を公開文書にするなら、情報公開対象となるため基本的施策等がわかるように表も添付すること

(2)答申書(案)に対する今後の方向性について

事務局

資料2についての説明

意見交換

会長

答申の趣旨を理解したうえで、強化すべき点、新しく取り組みが必要な点、などご意見いただきたい。

委員

様々な事業を、市内一か所ではなくて広い地域で実施することは、意義あることだと思う。マスターコースは継続することに意義がある。地域で若手アーティストが育つ環境づくりをしてほしい。レジデンス事業については、音楽・ダンスだけでなく絵画など、より幅広い視点から多様性のある内容にしてほしい。酒田は最上川・日本海など豊かで美しい自然がいたるところにある。野外で行うなど自然を生かし、その中で感動をえるような事業ができないか。市は、新井田川の河川整備などを行い、もっと歩いて楽しめる街にしてほしい。

委員

レセプション研修とあるが、レセプションは集まっているのか。事業数が多いため沢山の人の協力が必要である。マルシェについては、歌舞伎・舞娘など酒田を代表するコンテンツを取り上げることで、集客数の増加が大いに期待できる。来年度はさらに、地域との連携が深まっていくものと思う。レジデンス事業について、アーティストが酒田を好きになる、その効果は非常に絶大。中央で活躍するアーティストが酒田を評価してくれることはとても大切で、酒田のPRに繋がる。クリニック事業について、山響は若い奏者がどんどん増えてきており、彼らは新しい奏法を学んでいる。そういった部分を子どもたちに教えられるような環境づくりは非常に大切。

委員

マルシェについて、ミニアートマルシェのような催しをホールホワイエでできないか。希望ホールホワイエ・ロビー・玄関前を使って、美術・彫刻などの体験ができれば。以前、希望ホールでマルシェを2年間行い、そこからホールに親しみを持ってくれた市民もいる。ホールはいろいろな人が集まり交流・コミュニティが生まれる場である。また、そこでの体験から、次は酒田市美術館・土門拳記念館にも行ってみようという気持ちが生まれる。

レジデンス事業について、大変魅力的な事業であり、実際クラシックを勉強している友人は飛びついてきた。大勢の人に情報が行きわたるように宣伝方法等を工夫し周知を図ってほしい。それによって、より身近な事業となる。今年度はクラシックだが他のジャンルにも広げて欲しい。

委員

レセプションに関しては、若い世代に参加していただけるよう名前を工夫するなどして、高校生・大学生等にも声をかけては如何か。事業を実施する場所については、高いポテンシャルを持つ酒田の様々な文化的・歴史的施設を活用して実施することは、相乗効果を期待できるので非常に良いと思う。

委員

研修事業、リージョナルなどの育成事業について、見る側から、中に入って参加して企画するという体験は非常に大事である。今後どのようにPRして、若い人含めてどのように事業に参加してもらうかが重要である。レジデンス事業について、市担当者から、各学校を廻っていただき、連絡調整・事前の下見・学校の意見の吸い上げなどを行っていただいたことは、大変ありがたかった。良い事業になることを期待している。アーティストのジャンルが少ないので、子供たちから「●●がしたい」と要望を集めてもよいのではと思う。

委員

いいいろいろな展について、来年度、支所を含めての事業実施は地域格差が無くなり良いことだと思う。会場が変わることで安定しないという意見もあると思うが、安定よりチャレンジが大事である。レジデンス事業について、まちづくり推進課と連携して、市の空き家を活用してアーティストに滞在し

てもらってはいかがか。以前、高山樗牛賞を酒田市の詩人が受賞したが、酒田市広報等での情報発信はなかった。鶴岡市・酒田市に拘らず酒田市民の活動を積極的に取り上げて欲しい。こういったことも他市との連携に繋がると思う。

委員

マスターコース実施には感謝している。参加した声楽家はその後、確実に実績が上がっており、酒田での体験が人生のターニングポイントとなっている。

委員

具体的な事業を計画する際、市民の要望・意見を入れてほしい。いろいろな展について、健常者も出展させてはいかがか。社会包摂は障がい者だけを対象としているのではない。芸文協の中にも、まだ文化芸術推進計画を読んでいない人がいることは非常に残念。

委員

大変な労力が必要とされるが、街中でもう少し事業展開できないか考えてほしい。

会長

行政職員向け研修は必要。文化芸術担当だけでなく財政・企画担当の職員の参加も必要。文化芸術事業とは、命・人権・酒田の未来の資源作りに関わることなのだと認識してもらうことが大切である。地域創造や市町村アカデミーで実施している研修に参加してもよい。

実務的なレセプション研修などは大切であるが、プロデューサーにつながる研修も必要。例えば商店街に仕掛けていける市民や、行政を動かしていけるような市民集団を生み出す研修が必要である。学校現場と繋がったことで、次は定期・定例的な意見交換の場をシステム化すること。今年度のレジデンス事業案内のように担当者が20数校説明して廻るといことは、非常に労力がかかる。また学校側は、もっと子供たちの意見要望を吸い上げるところに力をいれてほしい。エネルギーの配分・支点を変えていくように。障がい者アート展については、先進地である滋賀県とか草津市を参考にしてみたいかがか。マスターコースについては、奈良のトスティ音楽祭とジョイント企画を行っても良いと思う。他市とのジョイントを考えていくなど、酒田市から文化の情報ネットワーク作りを仕掛けていってほしい。

委員

中央で活躍するアーティストを、どうやって発掘・招聘しているのか

事務局

一般的には、地域創造の事業については登録アーティストから選択する。また本市のコーディネーターから推薦・紹介を頂いている。加えて、市原氏のような広い交流関係・人脈を持つ方から紹介いただくこともあり、それで実現した事業が数年前の若竹ミュージカルである。今後も、皆様から様々なアーティストを紹介していただくと大変ありがたい。

会長

一旦、5号議案を閉じる。なお、複数の委員からいただいた意見である、歩いて楽しめる街づくり、魅力的なショーウィンドウづくりについては、社会教育担当・生涯学習担当が行うことなのかという問題はありますが、その仕掛け方が非常に重要である。力仕事ではあるが、できないことはない。実現には、庁内の観光担当・交流担当など様々な部署からの協力が不可欠で、協力を得るためにはしっかりと筋道を立てて進めていく必要がある。そのために、まず文化行政担当連絡会議のようなものが必要。これについては今後の検討事項とする。

4.その他

事務局:最後に、次回の審議会の日程ですが3月に予定している。その際の日程は改めて調整させていただく。

5.閉会

【以上】